



タカノ株式会社

〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村137
TEL. 0265-85-3150 (代)

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会及び利益配当金については 毎年3月31日 中間配当金及び株主優待については 毎年9月30日 その他必要がある時は、あらかじめ公告いたします。
名義書換代理人	UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1-4-3
同事務取扱所	UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都江東区東砂7-10-11 (〒137-8081) TEL：03-5683-5111
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
1単元の株式の数	100株
公告掲載新聞名	日本経済新聞

※お知らせ 当社は決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社ホームページ
<http://www.takano-net.co.jp/ir/index.html>
に掲載しております。

■株式に関するお手続き用紙のご請求について■

株式に関するお手続き用紙（届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等）書類のご請求につきましては、上記名義書換代理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

0120-24-4479（本店証券代行部） 0120-68-4479（大阪支店証券代行部）
インターネットアドレス <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主さまは、お取引口座のある証券会社にご照会ください。



地球環境に配慮した大豆油
インキを使用しています



古紙配合率100%再生紙を使用しています



NAGANO trend

6

『すがれ追い』

「すがれ」とは地中に何層もの巣を作る地蜂（黒スズメバチ）の長野県伊那地方における俗称です。伊那地方では古くから貴重なたんばく源として「蜂の子」を食してきましたが、蜂の巣を探すにあたり「すがれ追い」という独特の方法をとっております。

まず、枝や長い棒の先に真綿で目印を付けた蛙や魚などの餌を取りつけ、地蜂がくるのを待ちます。しばらくして匂いでおびき寄せられた地蜂が餌をつかまえ巣に向かいます。そこで、真綿を目印に巣に帰る蜂の後ろを木の根などにつまづきながらもリレー形式でひたすら追いかけるのです。こうしてつぎとめた巣は地蜂を花火などで仮死状態にしてから掘り起こされます。

伊那地方では古くからこのようなユニークな方法で地蜂探しが行われ、地域に根ざした文化となっています。

タカノ 通信 Vol.17 2004/03 証券コード 7885

第51期 事業報告書
平成15年4月1日▶平成16年3月31日



© Snowman Enterprises Ltd. 2004 Licensed by Sony Plaza Co., Ltd.

Takano
タカノ株式会社

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
当社の第51期の業績ならびに次期の見通しについて、次のとおりご報告させていただきます。

当期の概況（連結）

当連結会計年度におけるわが国経済は、期の後半にかけて企業収益の回復、資本ストック調整の進展等を受けた設備投資の増加およびIT産業を中心とした製造業の輸出増加など景気回復基調が鮮明となってまいりました。しかしながら、完全失業率が高水準で推移するなど雇用情勢は依然として厳しい状況であり、景気の本格回復には、なお予断を許さない状況で推移しております。

このような環境のもと、当社は「常に高い志を掲げ、飛躍的に競争力を高め、高付加価値の製品・サービスを顧客に提供し続ける。」という基本的な考えを掲げ、OEM事業分野においては需要動向に左右されない収益体質を構築するため、合理化の推進による徹底したコストダウンの実施および受注拡大のために積極的な新製品開発を図ってまいりました。エレクトロニクス関連分野においては「PS（フォトスペーサー）高さ計測装置」など液晶製造プロセスの変化に即応する製品の開発・拡販および液晶向け画像処理検査装置需要の急拡大を受け、生産体制の拡充に努めてまいりました。なお、「PS高さ計測装置」は平成15年7月「第8回アドバンスト・ディスプレイ・オブ・ザ・イヤー」において優秀賞を受賞いたしました。

その結果、エレクトロニクス関連部門の画像処理検査装置の受注および販売が好調に推移したこと等により、当期の売上高は20,793百万円で前期比1,907百万円（10.1%）の増収となりました。

営業利益は前期比で340百万円増加し、1,330百万円（前期比34.4%増）となりました。これはエクステリア部門における販売の低迷による影響はあったものの、前期に引き続き合理

化や管理間接部門の生産性向上に取り組むとともに、原価管理の徹底、経費の圧縮等、積極的なコストダウンを行ったことによるものであります。経常利益は、上記営業利益の影響から前期比で297百万円増加し、1,334百万円（前期比28.7%増）となりました。また、当期純利益につきましては、前期比311百万円増加し、871百万円（前期比55.5%増）となりました。

次期の見通し

次期の見通しにつきましては、世界経済の回復基調の中、国内においても設備投資と輸出に支えられ、緩やかに景気回復に向かうものと予想されますが、雇用情勢はなお厳しく個人消費回復の先行き不透明感、そして円高に対する懸念など、景気の本格的回復が確認できるまでの水準には至っておりません。

このような経営環境にあって、当社は、「自立」、「独自」および「俊敏」をスローガンとして経営基盤の拡充に努めるとともに、真にお客様に喜ばれる製品・サービスを提供するべく、品質を経営の第一に位置づけて活動してまいります。また、事業展開においては「OEM事業と自販事業のバランスのとれた利益の成長」を果たすため、OEM事業の思い切った合理化による収益力の向上、需要拡大が見込まれる自販事業である画像処理検査装置分野でのアウトソーシングの活用等による生産能力の向上と積極的技術開発、加えて新規事業分野の立ち上げをさらにスピードをもって推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月

代表取締役社長

鷹野 準

次期単体業績の見通し

売 上 高	22,000百万円	（前期比 11.9%増）
経 常 利 益	1,500百万円	（前期比 30.9%増）
当期純利益	940百万円	（前期比 31.0%増）

事業別概況

●OEM事業

OEM事業は、オフィス家具、エクステリア、健康福祉・ユニットに大別されます。

OEM事業の主力でありますオフィス家具に関しましては、当連結会計年度10シリーズ、47点の新製品を開発するなど新製品開発に積極的に取り組むとともに、合理化を目的とした製品製造ラインの再配置の実施などコストダウンを積極的に推進いたしました。首都圏を除く地域の需要は低調に推移したものの、首都圏再開発にともなう大型需要は堅調に推移し、売上高は増加いたしました。

エクステリアは、積極的な新製品開発と

新規顧客の開拓および代理店網の構築など営業活動に注力したものの、既存顧客との取引を縮小したことによる影響は大きく、売上高は大きく減少いたしました。

また、健康福祉・ユニットにおきましては、ばねおよび文具類において低価格化を指向した部品の海外調達へのシフト、コストダウン要請、板ばね製品の受注減少等に加え、米国向けの介護用移動機器の販売も対前期比で下回ったため、売上高は減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は11,364百万円（前期比8.1%減）、営業利益は197百万円（同27.3%減）となりました。

●エレクトロニクス関連事業

エレクトロニクス関連事業は、当社および連結子会社オプトワン株式会社によって構成されており、電磁アクチュエータおよび画像処理検査装置に大別されます。

電磁アクチュエータは、販売価格の低下の影響はあったものの、積極的な用途開発を進めるとともに、新紙幣への対応を目的とした金融関連機器向け需要の拡大に加え、織機向け需要および郵便機器向け需要が堅調に推移したことにより増収となりました。

●その他の事業

連結子会社である省力化機械等の製造・販売を行っておりますタカノ機械株式会社および工具・機械装置等の仕入販売を行っております株式会社ニッコーが当セグメントを構成しております。

株式会社ニッコー、タカノ機械株式会社

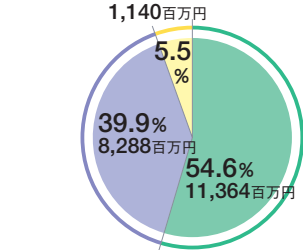
一方、画像処理検査装置は国内の液晶カラーフィルターメーカーおよび韓国・台湾における液晶パネルメーカー設備投資が堅調に推移したこと、新製品「PS高さ計測装置」の販売が好調であったことおよび装置製造体制のさらなる拡充をはかったことにより、大幅な増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は8,288百万円（前期比45.2%増）、営業利益は982百万円（同43.1%増）となりました。

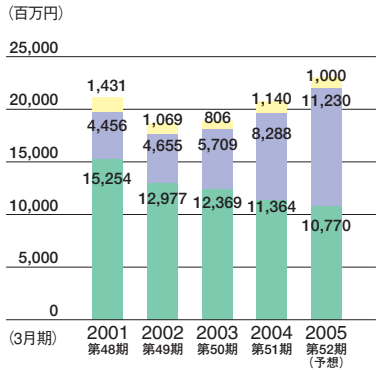
ともに、企業業績の回復にともなう設備投資の増加を受け、受注および売上が増加し、利益面においても大幅な改善がはかれました。

この結果、当セグメントの売上高は1,140百万円（前期比41.4%増）、営業利益は153百万円（同64.5%増）となりました。

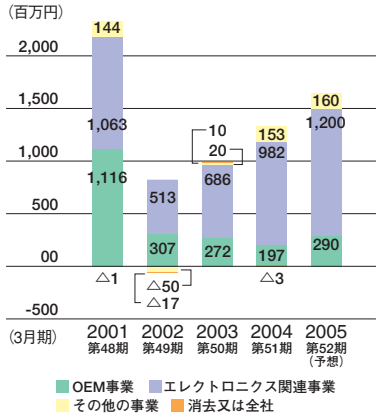
■セグメント別売上高構成比



■セグメント別連結売上高



■セグメント別連結営業利益

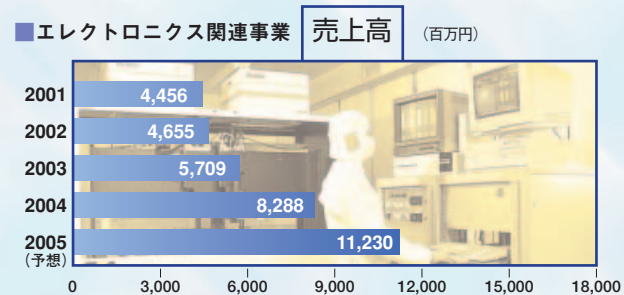
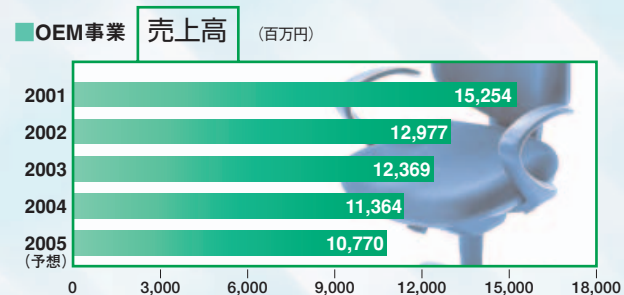


各事業の当社における位置付けと今後の方針について

特集／各事業の当社における位置付けと今後の方針について

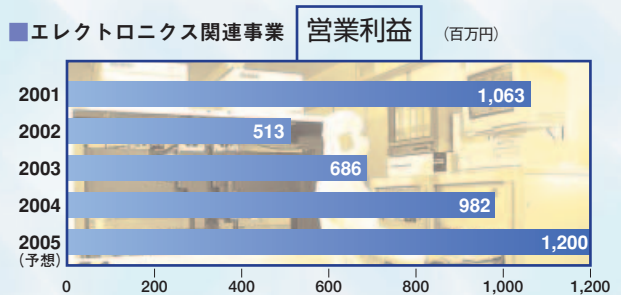
当社各事業における事業環境（事業別需要動向）について

当社OEM事業は、オフィス椅子、エクステリア、健康福祉・ユニット事業に大別されます。OEM事業の現状における事業環境は決して良好な状況ではありません。グラフのとおり、減少または停滞傾向を示しており、近年の景気低迷による企業業績の悪化、それにともなう企業設備投資の低迷により、オフィス家具需要も低迷するなど、厳しい環境となっております。



一方、画像処理検査装置、電磁アクチュエータにより構成されるエレクトロニクス関連事業は、液晶パネルやPDP（プラズマ・ディスプレイ・パネル）の増産に向けた設備投資が継続的になされ、また、今後液晶テレビ向けの液晶パネル設備投資の活発化が予測されるなど、現状における事業環境は大変好調に推移しております。

エレクトロニクス関連事業は平成17年3月期において連結売



上高の約49%、連結営業利益の約73%を占める見通しであります。

以上のように、停滞気味であるOEM事業と今後の成長が大きく期待されるエレクトロニクス関連事業ではありますが、それぞれの事業においては異なる特性を持っています。

エレクトロニクス関連事業は、液晶・PDPなどの製造装置である検査装置を主力としております。液晶・PDP製造装置は、液晶・PDPメーカーの投資が引き続き活発化しており、成長が期待されるところでありますが、一方、同メーカーの設備投資動向により、大きな需要変動が起きる可能性を秘めております。そのため、急成長の反面、急激な需要の冷え込みの可能性があるなど受注環境は変動要素を含んでおります。

OEM事業はオフィス家具を主力としております。オフィス家具需要はバブル期をピークに右肩下がり推移しており、現状需要に底打ち感があるものの今後急成長はあまり期待できません。しかし、オフィス家具需要は急成長が期待できないものの、エレクトロニクス関連事業画像処理検査装置のように需要動向が急激に変化することはなく、安定的な需要を見込むことができます。

当社各事業における基本戦略について

OEM事業の基本戦略

OEM事業は大きな市場の成長が見込めない代わりに、比較的安定した需要環境・事業環境である本事業においては、
①限られた売上高の中でも利益の成長を果たせるよう、徹底した合理化による収益力の強化を図る。

- ②低価格帯の製品から高付加価値製品へのシフト強化による利益率の向上を図る。
- ③既存顧客にとらわれない、製品開発、事業開発を推進する。を基本的な戦略として事業を展開してまいります。

エレクトロニクス関連事業の基本戦略

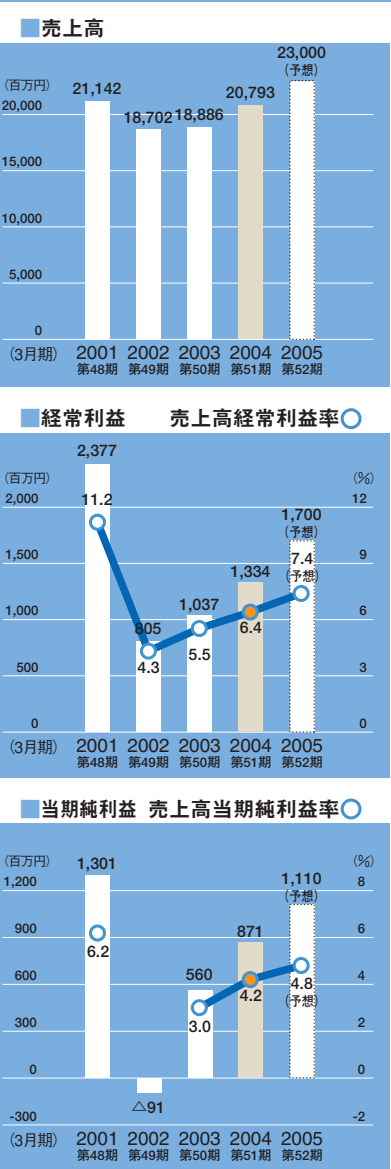
- エレクトロニクス関連事業は、需要の急成長が見込める一方、需要が急減する可能性を秘めています。このような需要環境・事業環境である本事業においては、
①市場成長が大きく見込まれるため、需要の取り込み・シェアアップに注力する。
②需要の変動に対応するため、固定的な費用構造に依存しないフレキシブルな体質を継続する。
③液晶など一部の業界にのみ依存しないよう、新分野向けの製品開発、事業開発に注力する。
を基本的な戦略として事業を展開してまいります。

中期的なタカノの事業構造イメージについて（中期売上計画・中期利益計画）

タカノは、以上のような環境認識・基本戦略のもとに、中期（3年後）売上高目標300億円以上、経常利益目標30億円以上を目指してまいります。

また、事業成長にあたっては特定の領域に偏ることなく、OEM事業、エレクトロニクス関連事業のバランスのとれた収益の成長を目指して事業を展開してまいります。

連結決算概要(要旨)



(注) 2002年3月期は、当期純損失のため売上高当期純利益率は表示していません。

● 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 平成16年3月31日	前 期 平成15年3月31日	増減
資 産 の 部			
流動資産	20,160	17,596	2,563
現金及び預金	7,052	7,831	△ 778
受取手形及び売掛金	9,895	7,627	2,267
有価証券	133	45	88
棚卸資産	2,673	1,743	929
繰延税金資産	187	124	63
その他	226	236	△ 10
貸倒引当金	△ 8	△ 12	3
固定資産	12,140	11,947	193
有形固定資産	7,835	7,846	△ 11
無形固定資産	87	109	△ 21
投資その他の資産	4,218	3,990	227
資産合計	32,300	29,543	2,757
負 債 の 部			
流動負債	7,170	5,197	1,973
支払手形及び買掛金	5,625	3,588	2,037
短期借入金	20	358	△ 338
未払法人税等	367	193	174
賞与引当金	337	317	20
その他	819	739	79
固定負債	1,199	1,170	29
長期借入金	375	246	129
退職給付引当金	732	831	△ 98
役員退職慰労引当金	91	93	△ 1
負債合計	8,370	6,367	2,002
少 数 株 主 持 分			
少数株主持分	—	—	—
資 本 の 部			
資本金	2,015	2,015	—
資本剰余金	2,157	2,157	—
利益剰余金	19,923	19,318	605
その他有価証券評価差額金	86	△ 63	149
自己株式	△ 252	△ 252	—
資本合計	23,930	23,175	754
負債、少数株主持分及び資本合計	32,300	29,543	2,757

● 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 平成15年4月 1日から 平成16年3月31日まで	前 期 平成14年4月 1日から 平成15年3月31日まで	増減
売上高	20,793	18,886	1,907
売上原価	16,712	15,323	1,389
売上総利益	4,081	3,562	518
販売費及び一般管理費	2,750	2,572	177
営業利益	1,330	990	340
営業外収益	61	76	△ 14
受取利息・配当金	39	43	△ 4
その他	22	32	△ 10
営業外費用	57	29	27
支払利息	6	2	4
その他	50	27	23
経常利益	1,334	1,037	297
特別利益	103	94	9
特別損失	89	99	△ 9
税金等調整前当期純利益	1,349	1,032	316
法人税、住民税及び事業税	516	375	140
法人税等調整額	△ 38	96	△ 135
当期純利益	871	560	311

● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 平成15年4月 1日から 平成16年3月31日まで	前 期 平成14年4月 1日から 平成15年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	470	803
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 35	△ 645
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 430	△ 38
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 9	—
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△ 5	119
現金及び現金同等物の期首残高	5,540	5,420
現金及び現金同等物の期末残高	5,534	5,540

● 連結子会社業績の概要

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
(株)ニッコー	1,442	68	36
タカノ機械(株)	890	92	84
オプトワン(株)	1,048	41	41

💡 キャッシュ・フローのPoint

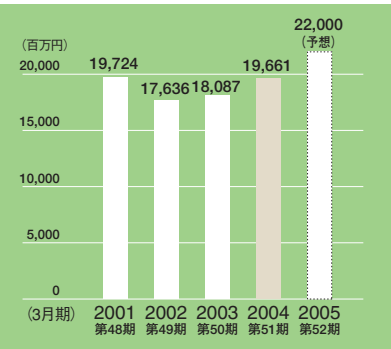
●営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前当期純利益が前期比316百万円と増加したものの、期末にかけての売上高の増加に伴い前連結会計年度と比較して運転資金が増加したこと等により、470百万円となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動により使用した資金は、主に有形固定資産の取得による支出が前連結会計年度と比較して352百万円増加したものの、定期預金の払戻による収入(預入から払戻を引いた純額)が1,027百万円増加したこと等により、35百万円となりました。

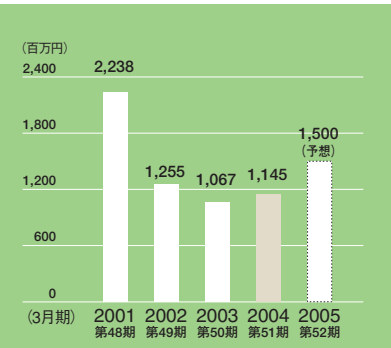
●財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動により支出した資金は、主に長・短借入金の返済(借入の返済から借入による収入を差し引いた純額)168百万円を支出したこと等により、430百万円となりました。

単体決算概要（要旨）

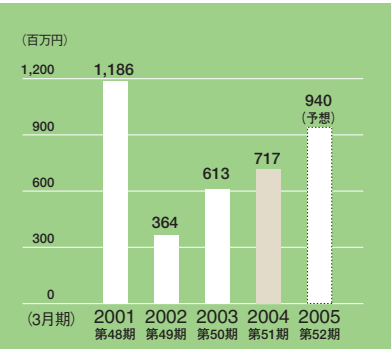
売上高



経常利益



当期純利益



単体貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 平成16年3月31日	前 期 平成15年3月31日	増減
資 産 の 部			
流動資産	18,872	16,706	2,166
現金及び預金	6,404	7,295	△ 891
受取手形	552	399	152
売掛金	8,930	6,965	1,965
有価証券	133	45	88
棚卸資産	2,403	1,570	833
その他	448	437	11
貸倒引当金	△ 0	△ 7	6
固定資産	12,788	12,636	151
有形固定資産	7,574	7,662	△ 87
無形固定資産	71	81	△ 9
投資その他の資産	5,142	4,893	249
資産合計	31,660	29,343	2,317
負 債 の 部			
流動負債	6,555	4,878	1,677
支払手形及び買掛金	5,068	3,324	1,743
未払法人税等	349	184	164
短期借入金	—	300	△ 300
賞与引当金	323	307	16
その他	814	761	52
固定負債	1,172	1,133	38
長期借入金	375	246	129
退職給付引当金	710	806	△ 96
役員退職慰労引当金	87	81	5
負債合計	7,728	6,011	1,716
資 本 の 部			
資本金	2,015	2,015	—
資本剰余金	2,157	2,157	—
利益剰余金	19,925	19,474	451
其他有価証券評価差額金	86	△ 62	149
自己株式	△ 252	△ 252	—
資本合計	23,932	23,331	600
負債及び資本合計	31,660	29,343	2,317

単体損益計算書

(単位：百万円)

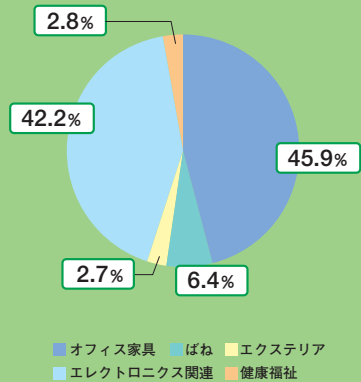
科 目	当 期 平成15年4月 1日から 平成16年3月31日まで	前 期 平成14年4月 1日から 平成15年3月31日まで	増減
売上高	19,661	18,087	1,573
売上原価	16,023	14,703	1,320
売上総利益	3,637	3,383	253
販売費及び一般管理費	2,508	2,362	145
営業利益	1,128	1,020	107
営業外収益	73	77	△ 3
営業外費用	56	30	26
経常利益	1,145	1,067	78
特別利益	106	97	9
特別損失	82	99	△ 16
税引前当期純利益	1,169	1,065	103
法人税、住民税及び事業税	492	357	134
法人税等調整額	△ 40	94	△ 135
当期純利益	717	613	104
前期繰越利益	497	447	50
退職手当積立金取崩額	—	3	△ 3
当期末処分利益	1,215	1,063	151

利益処分

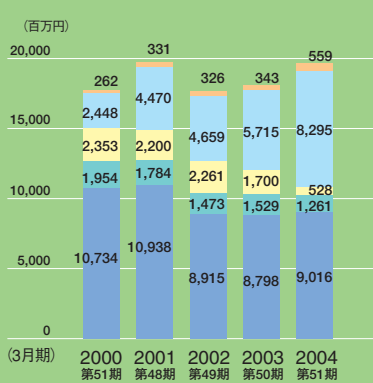
(単位：円)

科 目	当 期	前 期
当期末処分利益	1,215,238,776	1,063,639,035
利益処分類	613,100,000	565,840,000
利益配当金	308,400,000 (1株につき20円00銭)	262,140,000 (1株につき17円00銭)
役員賞与金 (うち監査役賞与金)	4,700,000 (400,000)	3,700,000 (400,000)
任意積立金 別途積立金	300,000,000	300,000,000
次期繰越利益	602,138,776	497,799,035

当期の品目別売上高構成比（単位：％）



品目別売上高推移



当社株式が 東証一部指定されました。

本年3月1日、当社株式が東京証券取引所市場第一部に指定されました。

当社株式は平成7年7月の店頭銘柄への登録ののち、平成9年2月以来、東京証券取引所市場第2部に上場されてまいりましたが、このたび同証券取引所のご指定により、本年3月1日から市場第一部に上場され、同日、当社鷹野社長が同取引所に一部指定通知書をいただきました。

これも株主のみなさまをはじめ、取引先、その他関係のみなさまのご支援の賜であり、あらためて感謝申し上げます。

このたびの一部上場は従来より願っていたことであり、当社が新たな段階へ踏み出す契機となる大変光栄な出来事だと思っておりますが、一部上場そのものが当社の目指すべきものではありません。いかに一部上場にふさわしい企業体質や体制を築き、継続的な発展ができるかがわれわれにとって重要なことだと考えております。また、これを成し遂げることが、株主のみなさまに報いることになると考えております。

当社はこの一部上場にあたり、その社会的責任を認識し、なお一層努力してまいりますので、株主のみなさまのより一層のご支援をよろしく願っています。



エクステリア製品を 2つの展示会に出展。

本年3月2日から5日にかけて東京ビッグサイトで約20万人を集め行われた国内外の建築建材の専門展示会である「建築・建材展2004」、3月9日から12日にかけて同じく東京ビッグサイトで約10万人を集め行われた宿泊・飲食施設関連の専門展示会である「ホテル・ジャパン2004」に当社はオーニングをはじめとするエクステリア製品を出展いたしました。



「建築・建材展2004」においては主に家庭用オーニング「こまがねシリーズ」を展示し、「ホテル・ジャパン2004」においては主に「ガーデンパラソル『イタリアの匠』」を展示しました。当社ブースへの来場者はそれぞれ、2,000名以上、1,500名以上にのぼり、大変好評の内に展示会を終えることができました。

両展示会へ出展したオーニングは洋風建築の普及にともない、今後の市場拡大が見込まれている製品であり、ご来場のみなさまも熱心に出展製品をご覧いただいたほか、製品に関する様々な評価をいただくことができました。

当社では、ご意見を今後の開発にスピーディーに活かすことにより、今後の製品づくりと拡販に役立ててまいります。



成果主義人事制度を
導入。

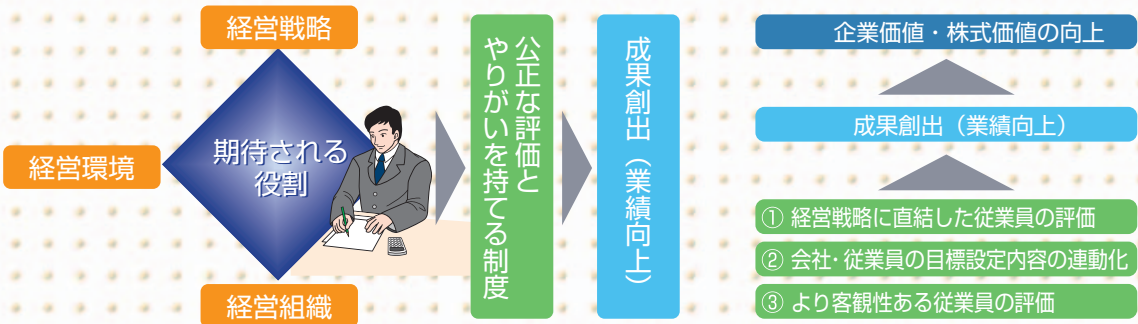
当社は年功的要素が残る従来の資格等級制度に基づく人事処遇制度から、業績貢献に基本をおく「役割・成果主義人事制度」の導入を予定しております。

今回導入予定の「役割・成果主義人事制度」は現在の急激な企業環境変化への対応と雇用環境の変化・雇用者の意識の変化等に対応するために導入したものであります。制度変更のポイントは、当社の業績と人件費の増減が連動するシステムであり、勤続年数・年齢等の年功的要素がなく、従業員においては自らがあげた成果に報いられること

ができ、やりがいが増える仕組みとなっていることであります。

また、業績と人件費の増減が連動するシステムのため、当社業績の向上による企業価値の向上という株主のみならずの目的と従業員の目的が一致する制度となっております。

当社は、本制度の導入定着により、従業員のやりがいを高めることで業績向上を果たし、ひいては株式価値を高めるべく、全社一丸となり業務に精励してまいります。



会社概要

商 号	タカノ株式会社
本 社 所 在 地	長野県上伊那郡宮田村137
創 業	昭和16年7月1日
設 立	昭和28年7月18日
資 本 金	20億1,590万円
事 業 内 容	事務用椅子、その他椅子等のオフィス家具、ばね、エクステリア製品、エレクトロニクス関連製品、健康福祉機器の製造ならびに販売
従 業 員 数	423名(平成16年3月31日現在)
上 場 取 引 所	東京証券取引所市場第一部

役 員

(平成16年6月29日現在)

代表取締役社長	鷹 野 準
常 務 取 締 役	鷹 野 力
常 務 取 締 役	野 溝 郁 文
取 締 役	小 田 切 章
取 締 役	大 住 之 盈
取 締 役	有 賀 松 雄
取 締 役	窪 田 守 男
取 締 役	黒 田 章 裕
取 締 役	河 村 公 二
常 勤 監 査 役	戸 枝 茂 夫
監 査 役	小 笠 原 慎
監 査 役	長 谷 川 洋 二



本 社



宮田工場



伊那工場



開発ビル

事業所

本 社	〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村137 TEL (0265) 85-3150 (代)
宮 田 工 場	〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村137 TEL (0265) 85-3155 (代)
伊 那 工 場	〒399-4431 長野県伊那市西春近下河原5331 TEL (0265) 72-3147 (代)
下 島 工 場	〒399-4431 長野県伊那市西春近小平3587-1 TEL (0265) 73-2088 (代)
南 平 工 場	〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村2053-7 TEL (0265) 85-4080 (代)
馬 住 工 場	〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂14-353 TEL (0265) 81-1575 (代)
横 浜 工 場	〒224-0057 神奈川県横浜市都筑区川和町639 TEL (045) 931-4424 (代)
特 品 工 場	〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村5450-205 TEL (0265) 85-3727 (代)
東京営業所	〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-13-1タカノビル TEL (03) 3253-8261 (代)
函館事業所	〒042-0958 北海道函館市鈴蘭丘町3-88 TEL (0138) 31-9313 (代)

グループ会社

●株式会社ニッコー			
住 所	長野県上伊那郡宮田村	資 本 金	90百万円
事業内容	工具・器具機械等の仕入販売	出資比率	100%
●タカノ機械株式会社			
住 所	長野県上伊那郡宮田村	資 本 金	50百万円
事業内容	省力化機械の製造販売	出資比率	100%
●オプトワン株式会社			
住 所	静岡県藤枝市	資 本 金	50百万円
事業内容	検査装置の製造販売	出資比率	80%

株式の状況

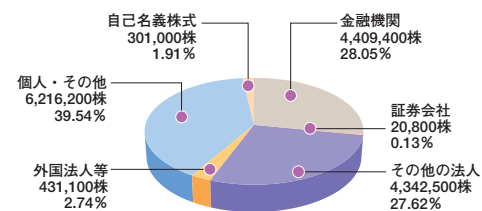
●株式・株主の総数

会社が発行する株式の総数	50,000,000株
発行済株式の総数	15,721,000株
株主数	2,140名

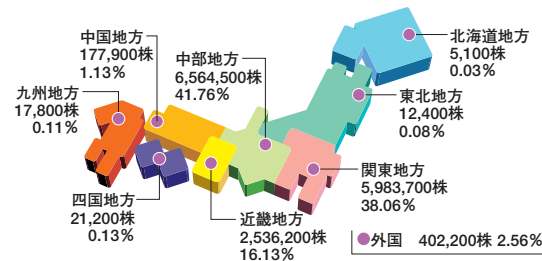
●大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
コクヨ株式会社	2,351,500株	15.25%
鷹野 準	1,721,200株	11.16%
日本発条株式会社	1,351,500株	8.76%
堀井朝運	1,315,600株	8.53%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,080,400株	7.00%
みずほ信託退職給付信託日本発条口	1,000,000株	6.48%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	655,900株	4.25%
鷹野 力	406,800株	2.63%
堀井良子	343,600株	2.22%
三菱信託銀行株式会社(信託口)	304,700株	1.97%

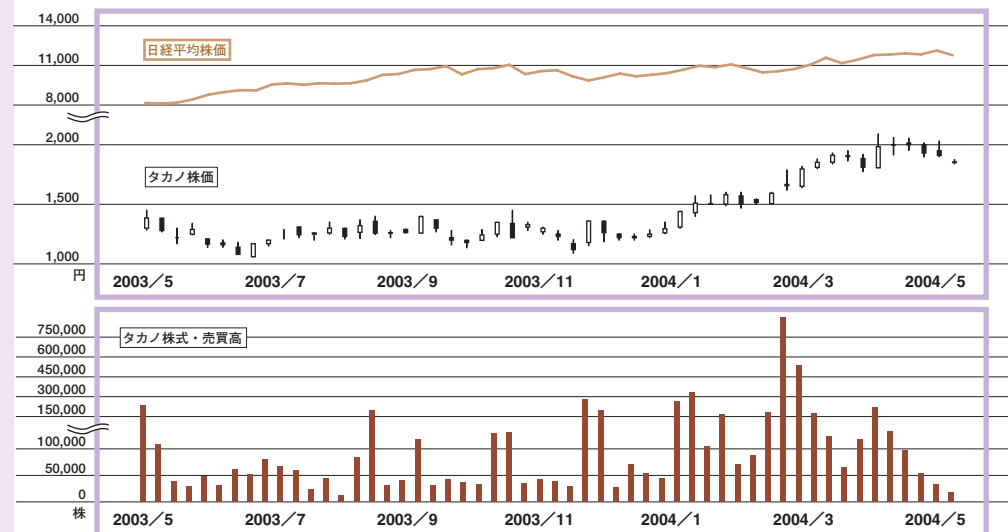
●所有者別株式の分布状況



●地域別株式の分布状況



●株価の推移



INFORMATION

ホームページのご紹介

タカノでは、株主・投資家のみなさまへのタイムリーな情報提供および双方向の情報交換を目的に、ホームページに会社情報を掲載しております。是非ご覧ください。



<http://www.takano-net.co.jp>

アンケートの協力をお願い

タカノ通信Vol.15においてお願いをしましたアンケートには多数の貴重なご回答をいただき、誠にありがとうございました。お葉書1枚1枚の向こう側に、株主のみなさまの当社に対する温かい思いや厳しさなどが感じられ、私ども一同身の引き締まる思いでありました。みなさまのご意見等を今後の事業報告書の編集に活かすとともに、よりよいIR活動の実践に活かしてまいりたいと考えております。

つきましては、お手数ですが、添付しました「アンケートはがき」にお気づきの点を何なりとご記入のうえ、ご返送いただければ幸いです。みなさまのご協力のほど、よろしくお願いいたします。

株主優待制度のご案内

平成15年度の株主優待は、1,000株以上所有のみなさまへは下記A～Eの5点の商品の中から1点お選びいただき贈呈いたします。100株以上1,000株未満所有のみなさまへは当社にて製造販売している「そば若菜スープ詰め合わせセット」を贈呈いたしました。

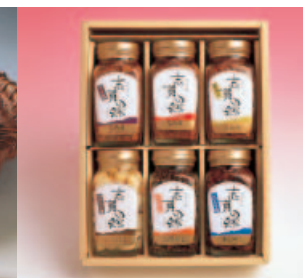
本年度の優待品もみなさまにおよろこびいただけるよう厳選の品をお送りする予定でありますので、ご期待ください。



A. 山ぶどうワイン



B. 信州りんご



C. 高級なめ茸「志賀の郷」



D. 信州のやまいも



E. 信州富士見高原ハム・ソーセージ